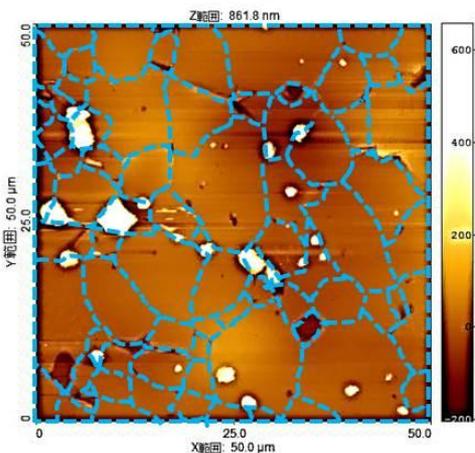


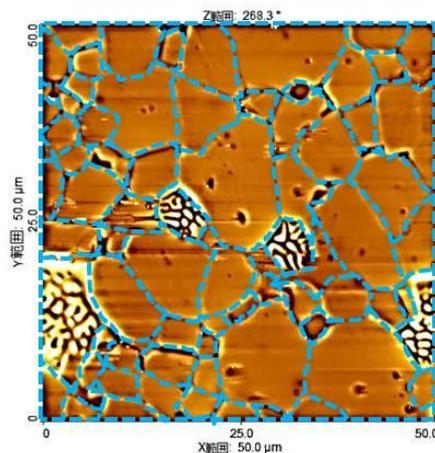
磁性体のマイクロな磁化状態を把握する方法として磁区構造観察は有効な手段の一つである。磁区構造観察手法としてはKerr効果観察法(MOKE)が簡便であるが、今回さらにMFM(磁気力顕微鏡)による磁性体の微細かつ鮮明な磁区観察手法を確立した。また温度可変しながらIn-situ連続で磁区観察する方法も実施したところ、各温度でのマイクロな熱減磁挙動、磁化反転挙動を観察出来た。

測定例;

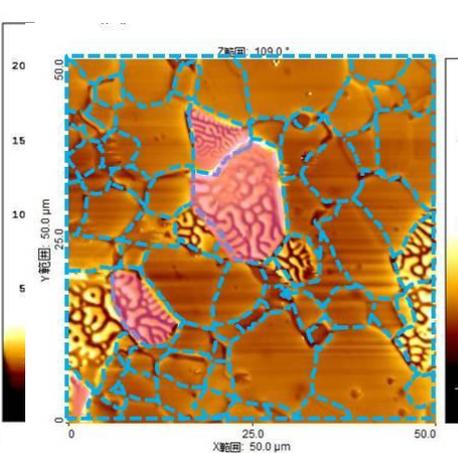
1. 試料; 焼結Nd磁石 (c面)、8 Tesla フル着磁品
2. 加熱温度; 常温(23°C)、91°C、135°C
3. 測定条件; 各温度1時間加熱後に室温まで冷却後測定



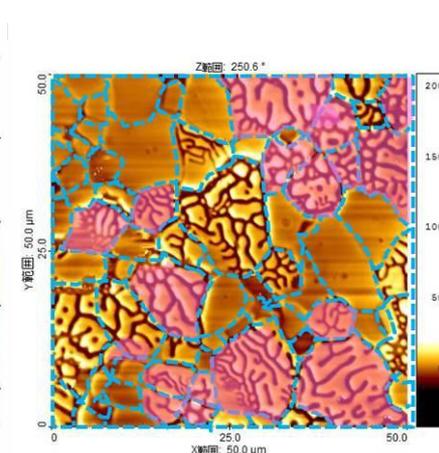
室温AFM形状像



フル着磁後室温MFM



91°C加熱後室温MFM



135°C加熱後室温MFM

フル着磁後既に磁化反転している結晶粒有り

ピンク色; 新たに磁化反転し磁区の見られる結晶粒